

学道一如

発行
小樽双葉高校
新聞部
2026年4月17日
第4号

海外経験が自信に 大塩あやのさん(2-1)

大塩あやのさんは韓国系のリリーの家庭にステイした。



ボストンのレストランで
リリーと大塩あやのさん

ボストンに連れていってもらい、バレエを鑑賞したり、買

物を楽しんだ。「服と一緒に探してくれたの思い出」とか。リリーの家族は田場璃依子さん、村上仁臯さんの家族とも親しく、一緒に映画や買い物に出かけることが多かった。(下写真)大塩さんは、今回の経験で「度胸がついた」と語る。

エジプト人の家庭に 田場璃依子さん(2-1)

田場璃依子さん(左写真右端)はエジプト人の家庭にステイした。タスニム・モハメドさん(右から2人目)は父親がエジプトに滞在しているとのこと。熱心なイスラム教徒で、一日に数回礼拝していた。ラマダンには日中断食を行うが、断食明け

のパーティーに参加させてもらった。そこでヘンナというタトゥーをしてもらった。茶色の花のデザインで2週間で消えた。米国では自分の意志を聞かれることが度々あった。はっきり答える必要がある、文化の違いを感じたという。



リスニングの力がついた 村上仁臯さん(2-1)

村上仁臯さんとナオミさん。得意の書道で交流。

村上さんはフランス人の父をもつナオミさんの家にステイした。犬を飼う明るい家庭で、一緒にゲームやアニメを楽しんだ。食生活の違いは感じた。映画を見に行ったり、シャンブレイン湖に連れて行ってもらった。



花立さん・茂木さんのホストファミリーであるローレンス家に皆で集まり、パーティーをしたという。ゲームやカラオケをして楽しんだ。



この間、リスニングの力がついたと実感できた。

ローレンス家(花立さん、茂木さん)にみんなで集まり、よくパーティーをした。

モントリオール散策 伊藤光星くん(2-2)

18歳〜13歳まで4人兄弟の家庭にステイした。優しい家族で食事は野菜や肉をバランスよく出してくれた。休日カナダのモントリオールに連れて行ってもらい、ノートルダム大聖堂(左は内部写真)を見学できたのは圧巻だった。



街でお土産を探し、マグカップを買った。文化の違いを感じることも度々あった。食事は席に着いて好きなタ

イミングでそれぞれいなくなっていた。海外ドラマのフレーズを覚えていたことは役に立っていた。スマホの翻訳機能を使うことは数回あったが、なるべく使わずにジェスチャーも交えてコミュニケーションを取った。将来はパティシエを目指し、イタリアなどに行きたいという。

バレエ公演の劇場で
サウスパーリントン
高校派遣プログラム
(2)



型抜きのプレゼン
大塩さんと田場さん



型抜きに取り組む
アメリカの学生たち